

第3回協議会等におけるご意見

- ・わかりやすいホームページづくりを提案頂きたい。
- ・ホームページ等から市民県民からのご意見を取り入れて頂きたい。



越後平野の生態系ネットワークのホームページ（案）を作成

越後平野の生態系ネットワーク（トップページ）	1
お知らせ	
越後平野の生態系ネットワークとは	2～6
越後平野の生態系ネットワークの見どころ	7～9
指標種 ガン類・ハクチョウ類・トキ	10
進め方・目指すこと	11～13
北陸地方整備局HPへ	
お問合せ	14

（参考） [北陸地方整備局HP](#)

越後平野の生態系ネットワークについて（北陸地方整備局HP）

<https://www.hrr.mlit.go.jp/river/seitaikeinw/seitaikeinw.htm>

新着情報

河川を基軸とした生態系ネットワークについて

越後平野における生態系ネットワークの取組

越後平野における生態系ネットワーク推進協議会

自然環境活用部会

生息環境検討部会

全体構想（案）へのご意見募集フォーム（2月26日まで）

越後平野の生態系ネットワーク

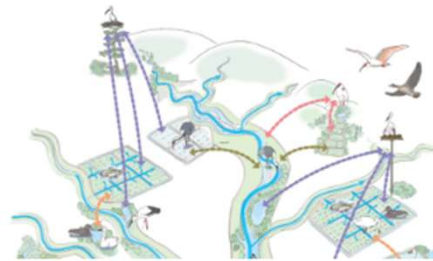
川・潟・農をむすび
人と人をつなぐ

越後平野の多様な主体との連携・協働のもと、健全な生態系のシンボルとしての大型水鳥類などの生き物を指標とした広域の生態系ネットワークを形成し、健全な生態系が維持されていることでもたらされる様々な自然の恵みを活かした魅力向上の取組を通じて、越後平野の地域振興を図ります。

お知らせ

2023/3/8 越後平野生態系ネットワークのウェブサイトを開きました。

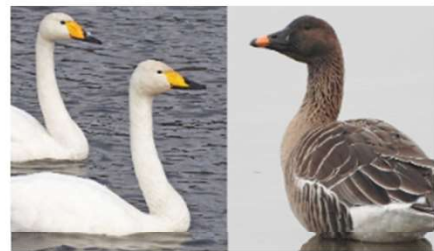
越後平野の生態系ネットワークとは



越後平野の生態系ネットワークの見どころ



指標種 ガン類・ハクチョウ類・トキ



進め方・目指すこと



お問合せ

越後平野の生態系ネットワークとは

生態系ネットワークとは

私たちの暮らしは、生物多様性がもたらす様々な恵み（生態系サービス）に支えられています。しかしながら近年、私たちの生存基盤となっている生物多様性が損なわれつつあることから、その回復が必要となってきています。その手段の一つとして、生態系ネットワークが注目されています。

生態系ネットワークとは、多様な野生の生き物が暮らせる地域を実現するために、保全および再生すべき自然環境並びに優れた自然条件を有している場所を拠点・軸として、これらをつないでいく取組です。農業者や市民、企業・団体、学識者、行政などの多様な主体が連携して、生態系ネットワークの形成に向けた取組を行うことで、地域の自然環境が豊かになるだけでなく、様々な地域振興および経済活性化の効果が期待されます。



「生態系ネットワークとは」については、事前説明を踏まえ下記を盛り込む形で修正中

- ・ 河川・潟湖・農地等が一体となって取り組む意義
- ・ 点の再生ではなく、面的な取組の必要性

越後平野の魅力

越後平野ってどんなところ？

越後平野は政令指定都市である新潟市等11市3町1村の市町村を抱え、面積は約1600km²と、日本海沿岸で最大の平野です。流域の土地利用としては水田等の農地が大部分を占めますが、信濃川河口域をはじめ、各所に都市環境が広がります。

越後平野の自然を特徴づける「潟」は、福島潟や佐潟をはじめとして今でも多く残されています。また、越後平野の周囲は丘陵地や山地に囲まれており、多様な動植物が生息・生育しています。



川と潟のある風景

越後平野は、信濃川や阿賀野川といった大きな河川により運ばれてきた土砂が堆積してできた沖積平野です。沖積平野は、扇状地、後背湿地、三角州、海岸低地、自然堤防、海岸砂丘などのいくつかの地形に分けられます。これらの地形は、繰り返おこった河川の氾濫にともなう土砂の堆積、平野の沈降、海面のわずかな上昇や下降などの現象が重なり合って、しだいに形成されてきました。潟や塩原が広がっていた越後平野は、江戸時代以降、放水路や排水路が掘られ、多くの潟が干拓されて農地になり、さらに一部は住宅地へと変わってきました。しかし、「潟」のもとになった後背湿地や池沼といった地形は、越後平野ができる過程で形成されたものなので、水をためやすいという性質をそのまま受けついでいます（新潟市「潟のデジタル博物館」より）



信濃川（越後平野）[MLIT]



信濃川下流（越後平野）[MLIT]



阿賀野川（越後平野）[MLIT]



鳥屋野潟



福島潟



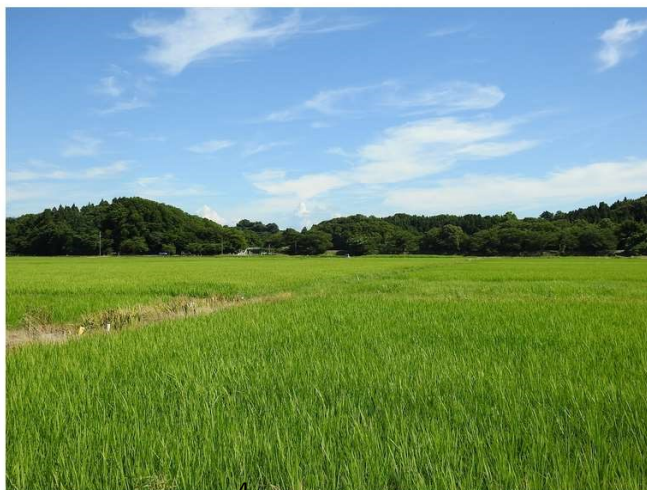
佐潟



瓢湖

米どころ新潟の水田・里山風景

越後平野は砂丘によって閉ざされた低い平地で、かつては洪水が起こると大部分が水に浸かってしまうような大湿地帯でした。それでも人々は、腰まで泥に埋まりながら米づくりをして暮らしていました。このため江戸時代中期の1730（享保15）年の松ヶ崎分水（現在の阿賀野川）掘削以来、多くの放水路が整備されました。1931（昭和6）年には大河津分水路が通水し、1972（昭和47）年には関屋分水路も通水したことで、治水効果は飛躍的に向上しました。こうした放水路と多くの排水機場が整備されたことにより、越後平野は日本有数の穀倉地帯となっています。





刈り取った稲株からの二番穂は、ハクチョウやガンの食物に

渡り鳥など多様な生きもの

これらの広大な水田地帯と湯や河川の組み合わせは、人々の暮らしのみならず、大型水鳥をはじめとした多くの生きものにとっても住みやすい環境を提供しています。特に、冬の居場所として親しまれているガン類（オオヒシクイ）やハクチョウ類については国内有数の越冬地として知られるところです。また、トキの野生復帰が進められている佐渡島に近いこともあり、散発的ではありますが、トキの飛来も確認されています。



水田に降り立ったオオヒシクイ



積雪期の田畑で採食するマガン



刈り取った大豆畑で食物を探すコハクチョウ



オオハクチョウ



トキ

写真・図表：MLIT=国土交通省、その他（無印）=（公財）日本生態系協会

越後平野生態系ネットワーク協議会
事務局：国土交通省北陸地方整備局 河川部 河川計画課
住所：新潟市中央区美咲町1-1-1 新潟英気合同庁舎1号館
電話番号：(代表)025-280-8880 (直通)025-280-8958

越後平野の生態系 ネットワークの見どころ

水のつながりで育まれた雄大な景観と豊かな生態系、そして自然とともにある暮らし。
越後平野は河川と湖によって、この地域ならではの景観を作り出してきました。その見どころを厳選して紹介します。

信濃川
阿賀野川
鳥屋野湖
福島溜
佐潟
瓢湖



信濃川下流 [MLIT]

信濃川

信濃川は新潟県・長野県をまたいで流れる日本最長の一級河川です。日本三大河川のうちの1つとされています。長野県、埼玉県、山梨県境の甲武信ヶ岳（こぶしがたけ）を水源とし、千曲川（ちくまがわ）として長野県を流れ、新潟県境からは信濃川と名を変えて日本海へと注ぎます。

信濃川下流

信濃川下流は、大河津分水路分派点から新潟海岸までの約60km区間を指し、その流域は新潟市、三条市等の7市1町1村で構成されています。

信濃川下流河川事務所では、河道掘削を実施していくなかで水際部を拡大し、小魚や稚魚が暮らしやすい止水環境やトンボの休息場となる浅場等、多様な生物の生態環境を創出する取組を行っています。



信濃川（大河津分水分岐点）



[MLIT]

大河津分水

大河津分水（おおこうづぶんすい）は、越後平野の中央部で信濃川と分岐し、燕市と長岡市の境界付近を流れ、日本海に流れる人工の河川です。

信濃川はかつて度重なる水害によって越後平野に壊滅的な被害を与えてきました。この被害をなくすために作られたのが大河津分水です。信濃川の水が越後平野に入る前に一部を日本海へ流すことで、越後平野を水害から守る役割を担っています。また、それぞれの河川にながれる水量を調整するために、大河津分水路には可動堰が、信濃川本川には洗堰がつけられました。大河津分水は越後平野を潤し、水害から守り続けています。

信濃川大河津資料館では、信濃川の歴史や大河津分水に関する資料が展示されています。展望室からは冬になるとハクチョウ類を観察することもできます。

また資料館の周辺は公園として整備されており、生きもの観察のできる体験水路や、水中を泳いでいる魚を観察できる魚道観察室があります。秋には信濃川を遊上するサケの姿を見られるかも知れません。

外部リンク

[信濃川大河津資料館](#)

五十嵐川遊水地

五十嵐川は信濃川の支流で、新潟県三条市を流れる一級河川です。五十嵐川遊水地は平成23年7月に発生した水害をきっかけに、三条市月岡に設置された、洪水時に一時的に水を貯めるための施設です。平成30年に完成しました。

現在は多くの水鳥が利用し、多様な植物や昆虫が生息するビオトープとなっており、自然観察の場としても親しまれています。



五十嵐川遊水地で過ごす水鳥たち





阿賀野川



阿賀野川

阿賀野川（あがのがわ）は、新潟・福島・群馬の3県にまたがり、広大な流域と長大な流路を持つ日本有数の大河です。越後平野を横断し日本海に注ぐまでの下流部には水辺の自然が多く残されていることから、鳥類や昆虫類、魚類など様々な生物の大切な生息場所となっています。

河口の砂浜には海浜植物群落のほか、海浜砂地だけに生息する昆虫が分布しています。また河口右岸の「ひょうたん池」には、全国的にみても珍しいオオモノサシトンボが生息しています。

河口から10キロほどにかかる大阿賀橋の周辺の中州には、冬になるとハクチョウ類が最大で2000羽ほど飛来し、ねぐらとして利用しています。

外部リンク

[阿賀野川河川事務所 阿賀野川の自然](#)



鳥屋野潟

鳥屋野潟（とやのがた）は新潟市中央区に位置し、新潟市内では福島潟に次ぐ2番目に大きな潟です。

市街地にあり、潟の周囲は県立鳥屋野潟公園として整備されており、市民の憩いの空間となっています。さらに洪水時には雨水を溜めて信濃川に排水するための遊水地にもなります。

鳥類は180種以上が確認されており、冬には4,000羽を超えるハクチョウが飛来します。県立鳥屋野潟公園には展望台や野鳥観察舎「鳥観庵（とりみあん）」等の観察施設があります。

市街地に近接しながらも、広大な水面を擁する鳥屋野潟の魅力ある環境を発信するため、コイやフナなど鳥屋野潟の魚を食する催しが開かれたり、「とやの潟環境舟運」や「とやの物語」などのイベントが開催されています。

外部リンク

[新潟県立鳥屋野潟公園](#)



福島潟

福島潟（ふくしまがた）は、新潟市北区と新潟市にまたがり、面積は260haと、潟と名のつく湖の中では新潟県内で最大です。五頭連峰を主な水源とする13本の河川が流入し、越後平野の低湿地環境を象徴する存在です。

これまで220種以上の野鳥と、470種以上の植物が確認されている自然の宝庫です。冬はハクチョウ類とともに、国の天然記念物オオヒシクイが飛来し、日本有数の越冬地として知られています。

水の駅「ビュー福島潟」は、福島潟の自然と文化の情報発信施設です。高さ29mの屋上からは潟と越後平野を一望でき、館内では潟の動植物や歴史の展示、潟の中のライブ映像を楽しむことができます。

また周辺には、福島潟を間近に眺められ野鳥の観察ができる「雁晴れ舎(がんばれしゃ)」、潟のヨシで屋根を葺き、床は板張りの錠敷じきで囲炉裏があるなどの民家を再現した「潟来亭(かたらいてい)」、コテージタイプの宿泊処「菱風荘(りょうふうそう)」などの施設が充実しています。また水鳥が訪れる福島潟周辺の水田で、環境にやさしい農法で育った米を使った日本酒蔵「ラグーンブリュワリー」は、ショップとカフェが併設されており散策の一息におすすめです。

外部リンク

[水の駅「ビュー福島潟」](#)

[菱風荘\(りょうふうそう\)](#)

[新潟県立環境と人間のふれあい館](#)

[遊水館\(ゆうすいかん\)](#)





佐潟

佐潟（さかた）は、新潟市西区に位置し、国内最大の「砂丘湖」といわれています。上流側の小さな上潟（うわかた）と下流側の大きな下潟（したかた）の、大小二つの潟から成り立つ淡水湖です。周辺を含めた76haがラムサール条約登録湿地に指定されています。外部から流入する河川はなく、周辺砂丘地からの湧水と雨水で涵養されています。

これまでに650種以上の植物や1,000種以上の昆虫類、210種の鳥類が確認されています。特に、コハクチョウの越冬数は毎年3,000羽以上で、越冬地として全国有数の場所となっています。

昔から地域の方々は、佐潟を利用しながら保全してきました。佐潟の岸辺では、明治時代以前から稲作が行われており、湖底から掻き揚げてきたドロ（種物遺骸）を有機肥料として利用していました。また冬場にはコイやフナといった淡水魚が貴重な食料となったほか、お盆の時期にはハスの花を刈り取り盆花として供える風習が今でも残されています。

「佐潟水鳥・湿地センター」は、水鳥類や湿地の保全についての普及啓発、調査研究及びモニタリング等を行う拠点施設です。かつて潟での作業に欠かせなかった「潟舟」に乗船体験をはじめとする様々なイベントが開催されています。

外部リンク

[佐潟水鳥・湿地センター](#)



瓢湖

瓢湖（ひょうこ）は阿賀野市に位置し、ハクチョウの渡来地として全国的に有名で、ラムサール条約登録湿地でもあります。

1950年にハクチョウが初めて飛来し、1954年には「水原のハクチョウ渡来地」として国の天然記念物に指定されました。その後渡来数の増加とともに池を拡張し、現在では湖水面積24ha、総面積280haの瓢湖水きん公園として整備されています。

湖面では約5000羽のハクチョウ類、20000羽のカモ類が越冬し、瓢湖周辺の広大な水田地帯は、ハクチョウ類の採食場所となっています。

外部リンク

[阿賀野市 瓢湖](#)

写真・図表：MLIT-国土交通省、その他（無印） - （公財）日本生態系協会

越後平野生態系ネットワーク協議会
事務局：国土交通省北陸地方整備局 河川部 河川計画課
住所：新潟市中央区美咲町1-1-1 新潟美咲合同庁舎1号館
電話番号：(代表)025-280-8880 (課直通)025-280-8958



指標種

ガン類・ハクチョウ類・トキ

指標種の設定

生態系ネットワークの形成にあたっては、地域の生物多様性の現況や、社会や経済への効果も見据えながら、地域を特徴づけ、取組のシンボルとなる生きものを「指標種」として位置づけることが効果的です。指標種を選定することで、取組の道筋や目指すべきゴールが関係者間で共有しやすくなります。

指標種を選定にあたっては、対象となる範囲の広がりや地域の特性に応じた観点に着目して、ふさわしい生きものを選ぶことが重要です。

越後平野においては、多様で豊かな生息環境の保全・再生の取組を推進する指標種となり、かつ賑わいのある地域振興・経済活性化の取組を推進するシンボルとなる生きものとして、ガン類・ハクチョウ類・トキを選定しました。



ヒシクイ

ガン類

国の天然記念物であるヒシクイ、マガンなどのガン類が飛来します。羊になったり、鉤になったりして飛ぶ姿は遠い昔から歌にも詠まれ日本人に親しまれてきました。ガンの仲間の中で一番大きな鳥であるヒシクイの亜種であるオオヒシクイは、福島潟（新潟市北区）が日本一の越冬地となっています。



オオハクチョウ

ハクチョウ類

越後平野には、毎年1万羽を超えるハクチョウ類が飛来します。そのほとんどがコハクチョウで、日本屈指の飛来数です。国内に生息する野生の鳥類では最大級の大きさで、かつ白く美しく、身近で観察できることからハクチョウ類の群れは冬の風物詩になっています。



トキ

トキ

国の特別天然記念物、新潟県の「県の鳥」、同県佐渡市の「市の鳥」として親しまれています。

佐渡島では、現在も共生を目指して野生復帰の取組が続けられています。現時点では、越後平野には定着していませんが、佐渡島から飛来する個体が不定期に確認されています。

進め方・目指すこと

越後平野の生態系ネットワークの進め方

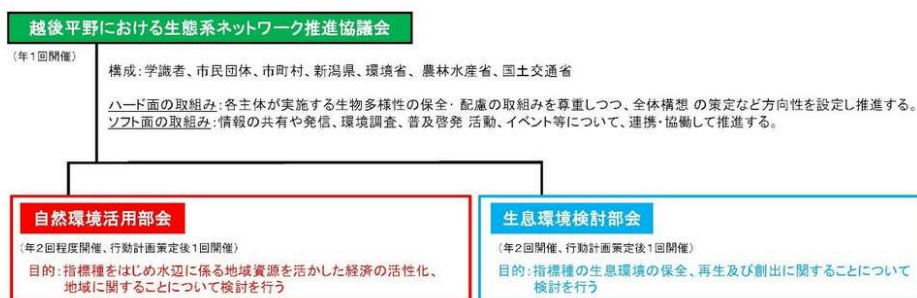
令和元年に「越後平野における生態系ネットワーク推進協議会」を設立しました。協議会では、越後平野における生態系ネットワークの目標に向けた取組の進捗確認、また、本構想に基づいた行動計画を策定し、事業を推進していきます。本構想・行動計画は、取組状況や社会状況に応じて、変更・更新を行います。また、関係機関担当者による連絡調整や情報交換を行う連絡会を、必要に応じて開催します。

実践的な取組のための部会は、生息環境の検討と自然環境の活用を取組のテーマとし、有識者や地域の関係主体が参加する具体的な取組の検討・実施を進める場として設置しました。

これまでに越後平野における生息環境の検討と自然環境の活用の参考とするために、現地視察会等を実施しています。



第1回 越後平野における生態系ネットワーク推進協議会



実施体制

↓協議会の配布資料・議事要旨はこちらでご覧いただけます↓

北陸地方整備局 河川を基軸とした生態系ネットワークの取り組み

越後平野の生態系ネットワークで目指すこと

取組みの指針となる全体構想を策定しています↓

越後平野生態系ネットワーク全体構想(案)

越後平野における生態系ネットワーク形成全体構想

全体構想は、越後平野においてガン類・ハクチョウ類・トキを指標として生態系ネットワークを形成するために、基盤となる水辺の保全・再生と良好な水辺を活かした地域の活性化という2つの基本方針と、短期目標・中期目標・到達目標の3つの時間軸に沿った目標を定め、それに向けた取組の考え方と推進体制を示しています。

○越後平野生態系ネットワークの方針・目標

基本理念

越後平野の多様な主体との連携・協働のもと、健全な生態系のシンボルとしての大型水鳥類などの生き物を指標とした広域の生態系ネットワークを形成し、健全な生態系が維持されていることでもたらされる様々な自然の恵みを活かした魅力向上の取組を通じて、越後平野の地域振興を図ります。

越後平野におけるガン類・ハクチョウ類・トキが舞う
地域のにぎわいを目指して

基本方針

越後平野において、河川、潟、水田、森林などの環境の生物多様性の保全および持続可能な利用のため、多様な主体が連携・協働し、生態系ネットワークの形成を推進するとともに、自然の価値や魅力を活かした地域の活性化を図ります。

基本方針 1

生態系ネットワークの
基盤となる水辺をはじめとした
環境の保全・再生

基本方針 2

良好な水辺等の環境を活かした
地域の活性化

○目標

生態系ネットワークの形成には長期的視点を持った取組が必要です。そこで、生物多様性条約で採択された「愛知目標」をはじめとした、多くの関連する計画の目標となっている2050年を、到達目標として設けます。

また、本計画に基づく取組の進捗・到達状況を段階的に把握するため、2020年の状況を基準とし、2025年を短期目標年、2030年を中期目標年として設定します。

到達目標 (2050年)

越後平野全域において、生態系ネットワーク形成によってもたらされる恵みにより、持続可能で豊かさを実感できる、安心・安全な地域が実現されるとともに、指標種であるガン類・ハクチョウ類・トキが舞い降りる美しい河川、潟、水田などの水辺が日常の風景であり続けることが、越後平野で暮らす人々の誇りとなっている。

中期目標 (2030年)

行動計画に基づいて、指標種であるガン類・ハクチョウ類・トキが生息する水辺の保全・再生に必要な取組が実施・推進され、生態系ネットワークの形成が進みつつある。多様な担い手の連携と協働により、生態系ネットワークを活かした地域づくりも成果を上げつつある。

短期目標 (2025年)

指標種であるガン類・ハクチョウ類・トキが生息する水辺の保全・再生に必要な取り組みを検討・整理し、生態系ネットワークの形成に向けた流域の多様な主体との連携・協働体制の整備、取組機運の向上を図る。あわせて、指標種が生息する水辺を活かした地域づくりの取り組みが検討・試行されている。

○越後平野生態系ネットワークの形成に関する取組

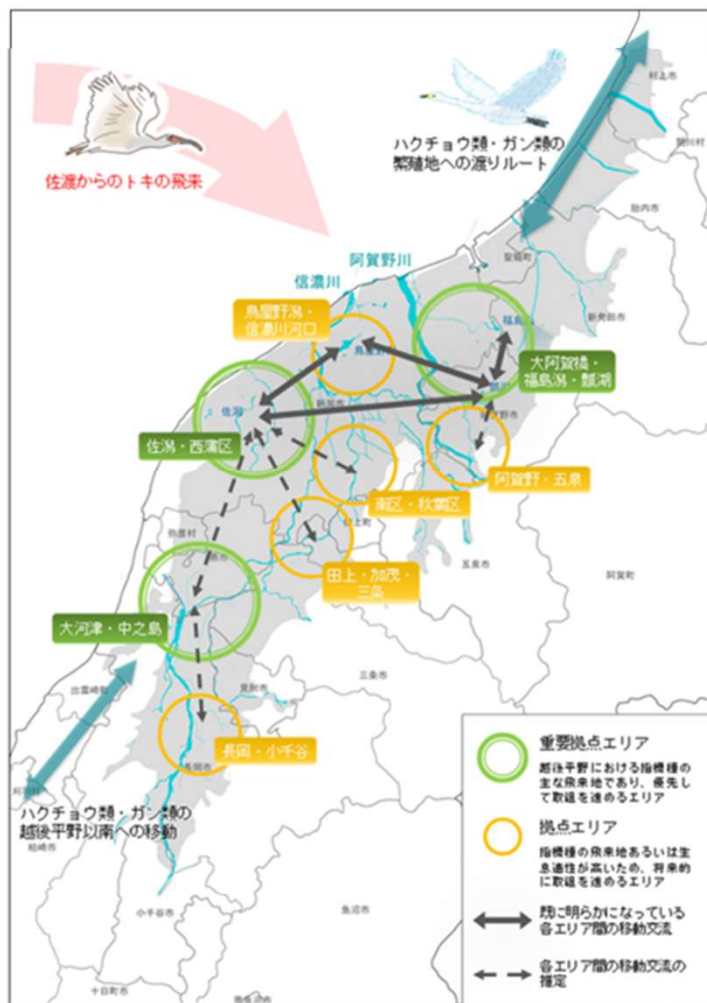
以下に、短期目標から到達目標までを通した取組イメージを挙げました。各取組イメージは今後策定予定の「行動計画」の検討材料として利用することを想定しています。

生態環境に関する取組イメージ

- 現状把握・計画
- 河川における生態環境整備
- 潟池における生態環境整備
- 農地における生態環境整備
- 林地における生態環境整備
- 流域一体となった生態環境整備
- 人為的要因による個体への悪影響の緩和
- 標種と共生できる社会環境づくり
- 外来種対策

地域振興・地域活性化に関する取組イメージ

- 現状把握・効果検証
- 理解と関心の向上・環境に係る「財産」としての価値の共有
- 多様な主体参加の仕組みづくり
- ガン類・ハクチョウ類・トキをシンボルとした地域振興・経済活性化の推進支援
- プロジェクトの継続・発展に向けた仕掛けづくり
- 国内外の計画や目標との連携・連動



越後平野生態系ネットワーク構想図[MLIT]

写真・図表：MLIT=国土交通省、その他（無印）=（公財）日本生態系協会

越後平野生態系ネットワーク協議会
 事務局：国土交通省北陸地方整備局 河川部 河川計画課
 住所：新潟市中央区美咲町1-1-1 新潟美咲合同庁舎1号館
 電話番号：(代表)025-280-8880 (直通)025-280-8958

お問い合わせ

お問い合わせ

 y_takahashi@ecosys.or.jp (共有なし)
[アカウントを切り替える](#)



*必須

お名前 *

回答を入力

メールアドレス *

回答を入力

お問い合わせ内容 *

回答を入力

送信

フォームをクリア

越後平野生態系ネットワーク協議会
事務局：国土交通省北陸地方整備局 河川部 河川計画課
住所：新潟市中央区美咲町 1-1-1 新潟美咲合同庁舎 1号館
電話番号：(代表)025-280-8880 (課直通)025-280-8958